

主張を支える筋道を読む

図解 | 本文の例で、読み方を確かめよう

何を主張し、どこまで言えるかを確かめよう

1 主張

筆者は何を提案するか。

2 根拠と反論

なぜか。別の見方にどう答えるか。

3 範囲

どの条件で、どこまで言えるか。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 学級で発表の練習をするとき、助言は良かった点から伝えるとよい。相手が自分の強みを知り、改善にも取り組みやすくなるからだ。
- ② 「良かった点を探すと、直す時間が減る」という意見もあるだろう。確かに、長く褒め続ける必要はない。伝わった内容を一つ具体的に挙げ、その後で改善点を絞って伝えればよい。
- ③ ただし、安全に関わる誤りなど、その場で直す必要がある場合は、先に注意を伝える。この提案は、通常の発表練習で互いに助言し合う場面を想定している。

段落のつながりを図にすると

① 主張と理由

良かった点から伝える。強みを知り、改善に取り組みやすくする。

② 反対意見と応答

時間への心配を認め、良かった点一つと改善点に絞る。

③ 条件・例外

急いで直す必要がある場合は、先に注意する。

「確かに」は反対意見を認める手がかり。「ただし」は主張の条件や例外に注意する手がかりです。

まとめ方を例題で確かめる

例題 | 1ページの文章を使おう

読み方の基本

主張は筆者が伝えたい考え、根拠はその考えを支える理由や事実です。理由がもっともらしくても、示された事実だけで主張全体を支えられるか、確かめましょう。

例題

この文章の提案を、例外も含めて五十字以上七十字以内でまとめなさい。

解答例

通	常	の	発	表	練	習	で	は	、	良	か	っ	た	点	を	具	体	的	に	20
一	つ	伝	え	て	か	ら	改	善	点	を	示	す	と	よ	い	が	、	安	全	40
に	関	わ	る	誤	り	は	先	に	注	意	す	る	。							60
																				70

〔54字〕 順序だけでなく、提案が当てはまる場面と例外を残しています。

よくある読み違い

「どんな場合も良かった点から伝える」では、③の例外が消えます。また、この例文には効果を測った調査結果はなく、理由を示した提案として読む必要があります。

根拠を確かめる問い

「一つの学級でうまくいった」から「どの学級でも同じ効果がある」と言えるでしょうか。
対象・期間・条件の違いを考えると、言い過ぎを見つけられます。

読み直すときのチェック

- ☐ 主張と、具体例・理由を区別したか。
- ☐ 反対意見に何を認め、どう答えたかを讀んだか。
- ☐ 条件・例外・根拠の限界を落としていないか。
- ☐ 本文にある根拠で、答えを説明できるか。

字数指定では、句読点・かぎカッコ・小さい「っ」「ゃ」なども一字と数えます。